神樹の会会報

No. 39
平成 8 年 7 月 17 日
発行所：神 樹 の 会
発行人：水 野 整 一

（事業所）
本部事務所（六甲作業支援センター内）
〒657 神戸市灘区備後町３丁目２番22号 ☎821-1533
六甲作業支援センター
〒657 神戸市灘区備後町３丁目２番22号 ☎821-1533
明芳デイサービス
〒654 神戸市須磨区大田町６丁目４－４ ☎735-8835
垂水作業所
〒655 神戸市垂水区星陵台４丁目４番45号 ☎782-9675
福祉の店“いたやど”
〒654 神戸市須磨区大黒町２丁目２－12 ☎733-2477

あなたと わたしの 夢を 紡ぎ 続けよう Let's Weave

わが子の卒業後の生き甲斐を求め、親たちの燃えるような熱意で昭和４７年に本会が設立された当時は、公的なサービスの場が無く神樹の会で神戸市にお願いし、下記にあるように卒業を迎えた生徒の親たちの力を得て、次々と卒業後の進路の場を計画し神樹の会で運営・実施してきた。が、四半世紀を過ぎた今、福祉の面・教育の面等で大きく変わってきている。特に震災後神戸市では財政上の点で新たな事業は社会福祉法人による運営で…という方向であるように伺われる。従って昭和６２年に他団体と一緒に生み出した社会福祉法人神戸明輪会に頼らざるを得ないということになるのではなかろうか。法人格のない神樹の会のこれからは多難であり、大きな曲がり角にさしかかっている。

25周年

四半世紀の曲がり角 見つめ直しませんか…

夢を重ねて 次期事業

平成３年５月　明芳デイサービス

明芳外科医院の看護婦寮を借り、編物等文化教室から始まり、保護者を所長としてデイサービスが発足。
震災で全壊。
朝日新聞厚生文化事業団によってプレハブ住宅が再建され、多数のボランティア地域の方々に支えられながらアットホームな運営をしている。

平成４年７月　訓練教室

東は友生養護で行われていた土曜教室を基盤とし、西は垂水体育館での日曜訓練教室から独立して神樹の会訓練教室として誕生。両校の先生方の熱意に支えられている。

平成２年４月　東部デイサービス

神戸市東部にデイサービスの場を願い東奔西走すること２年→神樹の会東部デイサービス事業として生活文化センターで発足→魚崎会館→神戸市民生局より借りた家(現魚崎デイサービス)→八坂神社の社務所を借りて現在に至る。

平成８年７月　魚崎デイサービス

流浪の民から解放され、神戸市により立派な建物が建設され、運営は明輪会がすることになった。利用生の移行により神樹の会東部デイサービスが発展解消ということになる。

昭和６２年４月　社会福祉法人 神戸明輪会

神樹の会４名と神戸市重度心身障害児者父母の会４名の計８名が準備委員会のメンバーとしてワークホーム明友・社会福祉法人神戸明輪会の設立にあたった。

ワークホーム明友	昭和62年４月
明友デイサービス	平成元年
灘デイサービス	平成５年
昼間一時保護	平成５年
東垂水デイサービス	平成８年５月

会報 年三回 発行
（会員をつなぐパイプ役）

垂水希望の家デイサービス 星陵園

昭和57年度垂水養護学校卒業生の母親が中心となり神戸市に陳情、昭和58年４月より、神樹の会西部生活訓練部として発足、現在の在宅重度障害者デイサービス事業の第１号なる。
指導員は平成元年度より神戸明輪会の準職員となっている。

六甲作業支援センター

昭和５８年４月　福祉ショップ いたやど

障害者や老人の生き甲斐と自立を目的とし、市より貸与された場所で運営されている。２割の委託料を払うシステムで、手芸など手作り品が主で保護者からの委託も随時受け付けている。

垂水作業所

西部にも小規模作業所をという要望にこたえて作られた。現在利用生19名が生き生きとボランティアに助けられ、がんばって作業にはげんでいる。
作業内容
・ししゅう糸の箱詰
・新聞の景品の袋入れ
・冷蔵庫食品袋箱詰め
・シールはり

昭和５４年12月

昭和５４年７月

六甲作業所

卒業後の進路が何より心配な親の熱意と努力で、神樹の会の第１号事業として20年運営して参りましたが、この度地震後、神戸市の財政事情により国庫補助を受けられる社会福祉法人神戸明輪会の傘下に会計面だけ入ることとなりましたが、運営は今まで通り神樹の会です。

昭和５２年４月

神樹の会

法人明輪会

支えあう 心と力

--- 会員による奉仕

--- 年１回のバザー

販売部・ミニバザー

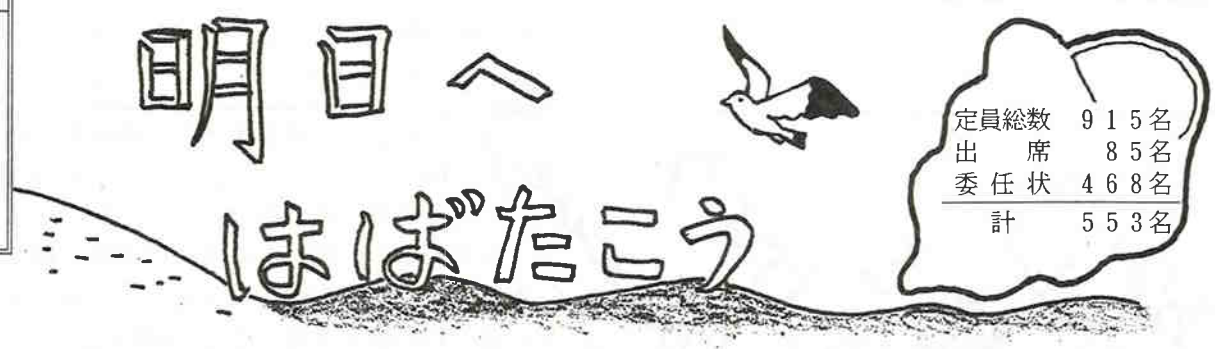
会員数	９１５名
正会員	５９７名
賛助会員	３１８名

総会

第２５回神樹の会総会が、去る６月２３日午後１時３０分より、神戸市勤労会館３階にて１７名のご来賓の出席を得て盛大に行われました。次のようなご挨拶を戴きました。

平成８年度重点目標

1．会員相互の絆を強め、
　　共に生きる輪を広げよう。
2．身体障害児（者）の進路保障
　①デイサービス事業の拡充・確保
　②療護施設の早期実現
3．バザー活動の発展と充実



定員総数	９１５名
出　席	８５名
委任状	４６８名
計	５５３名

福祉の心が芽ばえて

神戸市会議員　大野　一

震災後、皆様大変な思いをなさっているなか、次のステップとして防災に強い街造りを考えています。実体面でご迷惑のない型での実現を考えておりますのでご理解下さい。

私は、住吉小の卒業ですが、その時の交流の経験から申しますと、障害のない人が、障害のある人に何回出会ったかが、ノーマライゼーションの始まりだと思います。故に、両者の交流の機会がより多く持てますよう多方面でご活躍下さい。私も交流運動会等、頑張ります。本当の意味での福祉の心が芽ばえていく、ノーマライゼーションの神戸市が出来ますことを祈念致します。

強い絆とプラス思考で…

神樹の会会長　水野　整一

本日第25回神樹の会総会を開催するにあたり、ご多忙にもかかわりませず多数のご来賓のご出席を賜り厚く御礼申し上げます。また大震災以来、本会の作業所・デイサービスへの物心両面にわたるご支援に会員一同心より感謝申し上げます。

神戸市の厳しい財政上の事もあり、東部デイサービスが法人へ移行し、六甲作業所は明輪会の傘下に入り、運営は神樹の会がするという事になりました。止むを得ない選択であり、一面にはありがたいがまた、悩み・とまどいの気持ちを消す事は出来ません。しかし、今まで以上に強い絆を結び、これからもプラス思考で着実に頑張っていきましょう。

ノーマライゼーションの実現に協力と理解を

神戸市保健福祉局育成課長　吉岡　崇

神樹の会は社会福祉法人「明輪会」を神戸市重度心身障害児者父母の会と協力して作られました。他にも作業所や、デイサービス、福祉の店等運営されるとともに、毎年福祉バザーを開催されるなど、多才で活発な活動に敬意を表します。

さて、神戸市としても、「ノーマライゼーションの実現」と「デイサービス事業の拡充による進路保障」等にも努力していきたいと思っています。

平成九年から五年間、後期の障害者福祉計画が進められますし、皆様のご理解とご協力をお願いします。

学校がかかえる問題

友生養護学校長　中川　広師

垂水は20周年、友生は40周年を迎えました。それぞれ行事の方も無事に過ぎています。年々、子供たちの状態も重度化が進んできています。学校の中の問題を見直していかなければなりません。

今、大きな問題は、学習内容の問題、健康・安全面の問題、進路問題と、きびしい問題がある中で、神樹の会の意味は大きいと思います。ますます、今後の発展とご活躍を祈ります。

就任にあたって

垂水養護学校長　川上　博

この４月に市教委より赴任いたしました川上でございます。肢体不自由教育ははじめての経験ですが、教職員と一丸となって、この教育の推進に努めたいと決意しています。よろしくお願い申し上げます。今、障害児教育は課題が山積しています。しかし、何と言っても進路保障が最大の課題であると考えます。その課題に対し、本会の諸活動が学校の力強い支えになっています。今後ともご理解・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

このゆびとまれ…

自分に大切なこと

磯村　雪絵

平成七年一月十七日の早朝、阪神大震災という想像することのできなかった出来事が起こりました。その時私は、伊丹の障害者職業能力開発校の寮で地震にあいました。でも、自分の家族が気になり電話したのですが、なかなか電話がつながらず困りました。三日目にやっとつながって、家族が無事とわかり安心しました。家の方の状態がわからずとても心配だったけれど、マンションもなんとか大丈夫だったので、私は帰ることができました。帰れる場所と家族が元気でいてくれて本当によかったです。

私は現在作業所で働いていますが、自分のこれから先のことを考えると不安になることがあります。でも、大切なことは周りと比べてどうかじゃなくて、自分にとって何が大切かということです。迷ったり焦ったりしても、決めるのは自分だから納得できるようにすればいいと思います。そうはいっても考えすぎて空回りすることもあるので、のんびり進めばいいと自分に言い聞かせながら、家族と自分自身を大切に考えようと思います。

（平成四年度　友生養護学校卒
現　六甲作業支援センター　在籍）

♡感謝

平成八年六月に、次の方々より尊い寄付をいただきました。

・平谷幸子様　・川上　博様
・高内恒雄様　・原田由雄様
・県肢体不自由児協会様

新役員紹介

平成八年度の新役員が次のように決まりました。垂水養護学校の原田由雄校長の後任に川上博校長が、友生養護学校の小林禎嗣教頭の後任に工藤高行先生が着任されました。

（敬称略）

顧　問　中川広師　川上　博
相談役　足立梅雄　池田　稔
　　長谷川隼彦　増田龍昭
　　高内恒夫　山田福松
　　石川　敬　安原　実
　　岡本　茂　浜本允美
　　原田由雄　望月秀雄
　　堀川静子
　　水野整一
　　牧野一夫
会　長　谷　良子　宮脇テル子
名誉会長　矢野美知子　妙本喜三郎
副会長　小野治子　大橋敬子
　　池田恵子　松岡幸代
会　計　若野俊子　田中恵理子
　　泉　伸一　田村久仁子
　　谷口成子
会計監査　西村美絵子　進元文枝
書　記　渡田美津子　清水和代
事務局長　宮脇テル子
庶務　日高美恵子　吉岡佑起子
　　前川登美子　中野祀子

幹　事　午村和子　室之園里子
OB　野木冬恵　中元千鶴子
　　小谷由子　中川恵子
　　岸本よしの　森　光子
　　鍬田和代　藤長チヨ
　　大橋敬子　井上ナツ
　　水谷崇子　中村照子
　　南　洋子　門脇冬喜子
　　山下美智子　大浜綾子
　　濱田京子　瀬口暢子
　　松尾節子　高島陽子
　　藤井和信　八幡頼秀
　　工藤高行　長元千洋
友生　大森徳枝　藤田浪子
　　伊藤照子
垂水　小網正利　野村侑仔
　　小泉公子　森山里美
　　石倉旬子
六甲作業所所長　渋谷宏徳
垂水作業所所長　西垣幸夫
明芳デイサービス所長　西原孚左子
垂水希望の家デイサービス事業事務局長　鮫島ミツヱ
福祉の店いたやど　高木恵子
　　土居美千代
訓練教室室長　吉岡佑起子
　　黒田素美子

訃報

市川　進様（昭和五十四年度卒業生の市川洋さんの父親）が亡くなられました。心よりお悔やみ申し上げます。

あとがき

会報三十九号をお届けいたします。ご執筆いただいた方々にお礼申し上げ、会員の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

（伊藤　岩橋　宮家　鳥住　吉岡
日高　西村　黒田　松岡　宮脇）